

# 医学部・医学研究科

公立大学法人大阪市立大学

# CONTENTS

- ◇ 医学部・医学研究科と附属病院
- ◇ 医学部・医学研究科 の理念
- ◇ 人材育成の目標像
- ◇ 医学科入学者の動向
- ◇ 研修医の動向
- ◇ 教育の特徴
- ◇ 研究の特徴
- ◇ 地域への貢献
- ◇ 改革への取り組み

# 医学部・医学研究科と附属病院

## 附属病院



## 医学部・医学研究科



## 関連医療施設への排出

大阪市内	78
大阪府内（大阪市除く）	85
近畿（大阪府除く1府4県）	34
近畿以外	8
合計	205

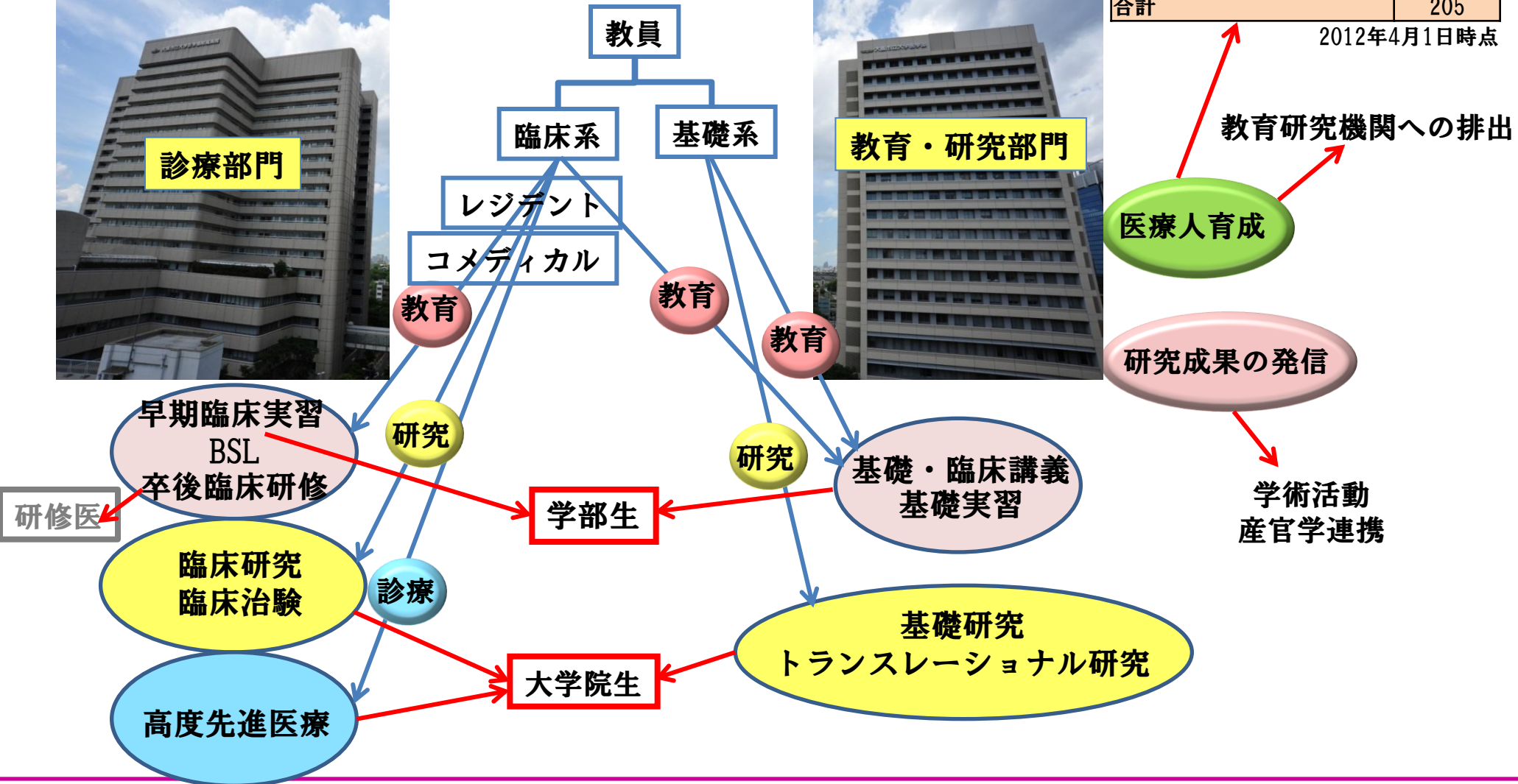
2012年4月1日時点

## 教育研究機関への排出

医療人育成

研究成果の発信

学術活動  
産官学連携



## 医学部・医学研究科 の理念

◆「智・仁・勇」の基本理念のもとで、人のもつ悩みや痛みを受け止めることができる、深く暖かい心を持ち、高度な医療を実践する人を育てることをめざします。

◆最先端の創造的な医学研究を達成できる、世界的に活躍する研究指導者を育てることをめざします。



## 人材育成の目標像

### 学士課程

- ◆人を分け隔てなく、温かく受け入れる心を持つ医師及び保健師・看護師を育成します。
- ◆最新の基礎医学と臨床医学をバランスよく修得し、実践する能力を持つ医師及び保健師・看護師を育成します。
- ◆科学的思考に基づいた判断力・問題解決能力を備えた医師及び保健師・看護師を育成します。  
国際的視野を持ち、人類に貢献する高い志を持つ医師及び保健師・看護師を育成します。
- ◆市民の保健医療ニーズに応えうる医師及び保健師・看護師を育成します。

### 大学院修士課程

- ◆最先端の講義あるいは臨床実習を通じて、より高度な医学知識や技術を修得する医師以外の医療職者、研究者、企業人を育成します。

### 大学院博士課程

- ◆最先端研究を先導的に推進し、独創性に富み、世界的に活躍する医学研究者を育成します。
- ◆大学、研究機関における基礎的あるいは臨床的研究をリードする指導者を育成します。

## 医学科入学者の動向

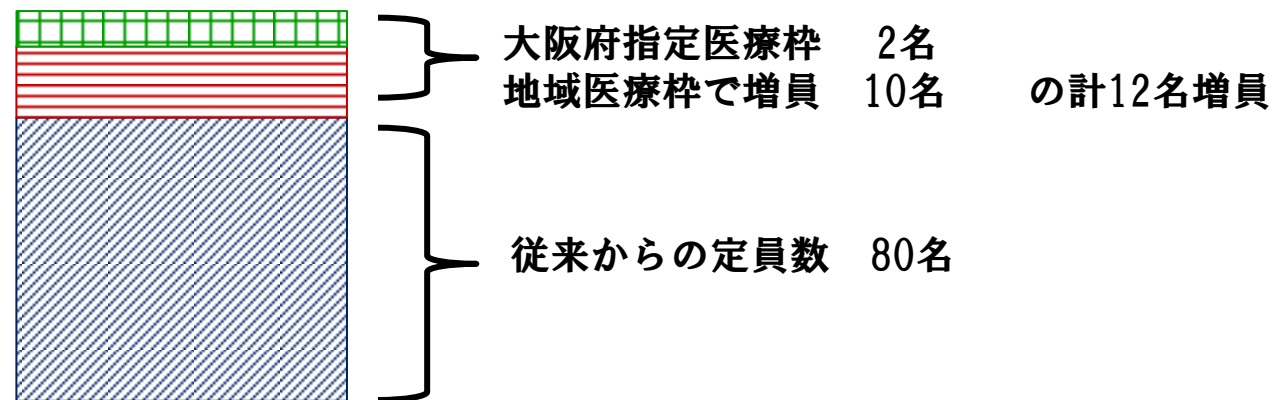
### 医学部入学定員の増員について

目的) 将来の大阪の医療における指導的・中核的役割を担える医師の育成

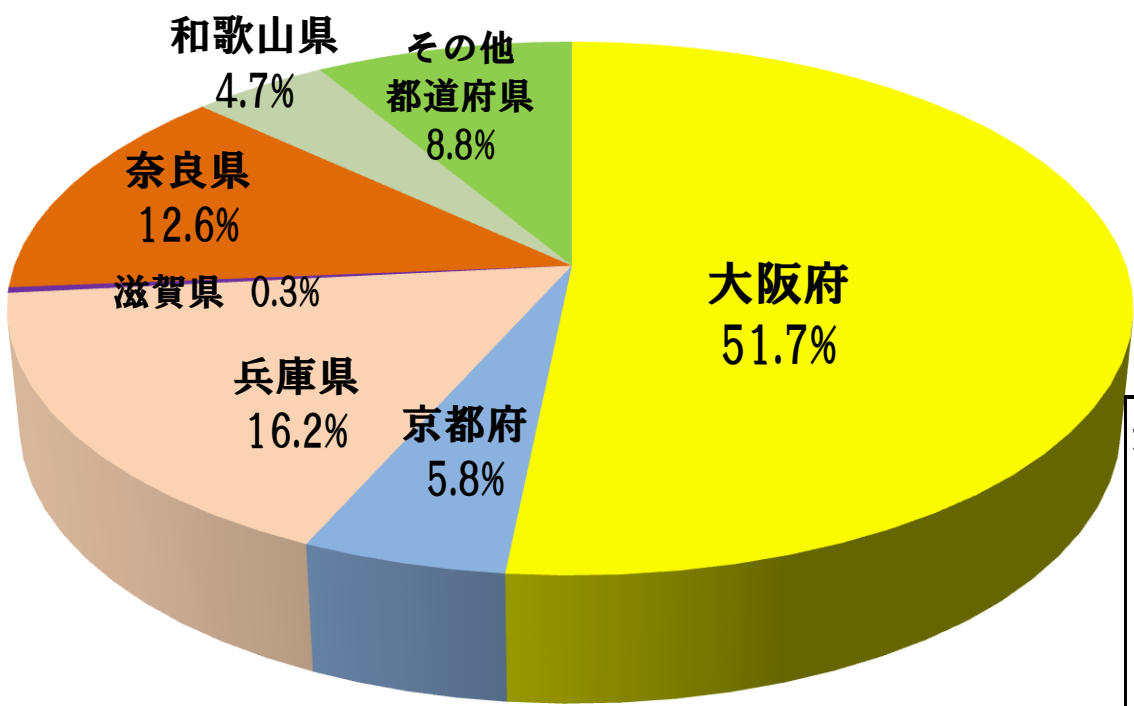
平成21年度 (2009年度) 経済財政諮問会議「経済財政改革の基本方針2008」を踏まえて、  
医学科入学定員を80名→90名へ10名を増員

平成22年度 (2010年度) 前年の増員10名を「地域医療枠」とし、卒業後9年間は大阪府・大阪市の  
医療機関に勤務することを条件付ける。

大阪府の事業を活用した「地域医療医師確保枠 (大阪府指定医療枠)」2  
名を平成22年から平成31年まで毎年定員増加。90名→92名となる。



入学者出身高校所在地 2005年度（H17）～2011年度（H23） 入学者

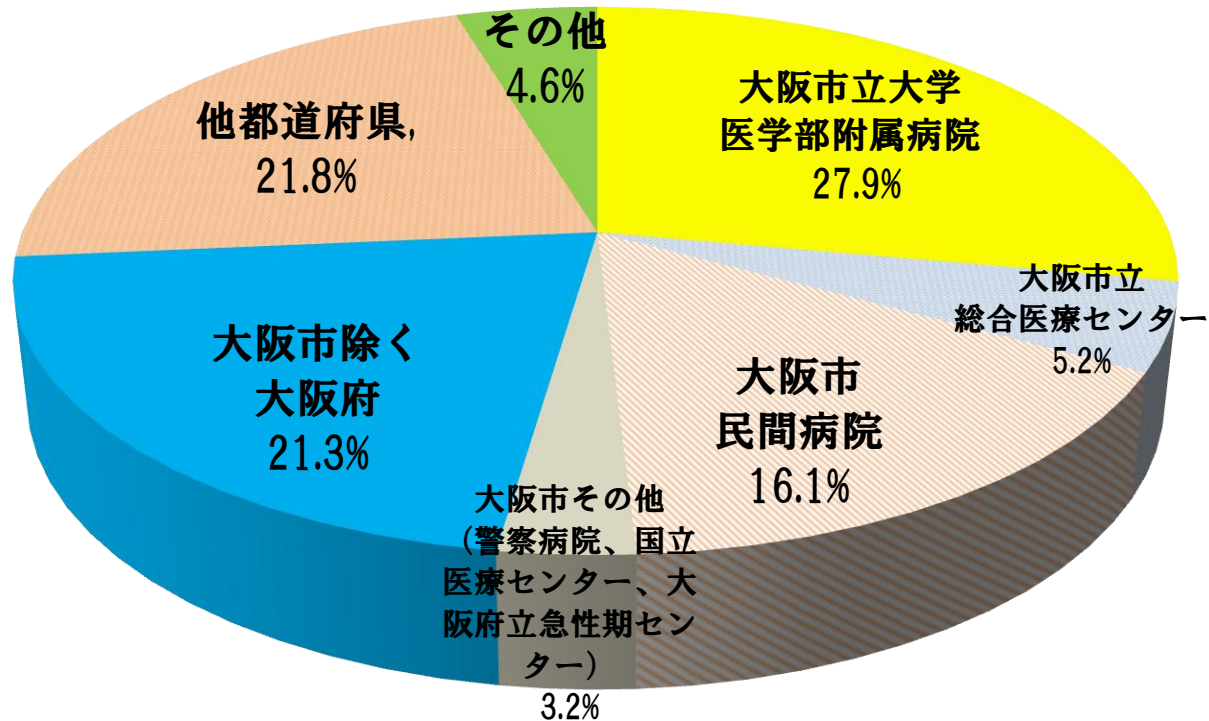


約半数の入学者が大阪府以外からの入学

近畿二府四県	大阪府	306名	51.6%
	京都府	30名	5.1%
	兵庫県	99名	16.7%
	滋賀県	2名	0.3%
	奈良県	78名	13.2%
	和歌山県	27名	4.6%
その他都道府県		51名	8.6%
合計		593名	100.0%

# 医学科卒業生の進路状況

2005年度 (H17) ~2011年度 (H23) 卒業者



大阪市内	大阪市立大学医学部附属病院	156名	27.9%
	大阪市立総合医療センター	29名	5.2%
	大阪市 民間病院	90名	16.1%
	大阪市その他 (警察病院、国立医療センター、大阪府立急性期センター)	18名	3.2%
	大阪市内合計	293名	52.3%
大阪市内除く大阪府		119名	21.3%
大阪府合計		412名	73.6%
他都道府県		122名	21.8%
その他		26名	4.6%
合計		560名	100%

- 50%以上の卒業生が大阪市内の医療機関を進路に選択。
- 約75%の卒業生が大阪府下（大阪市含む）の医療機関を進路に選択。

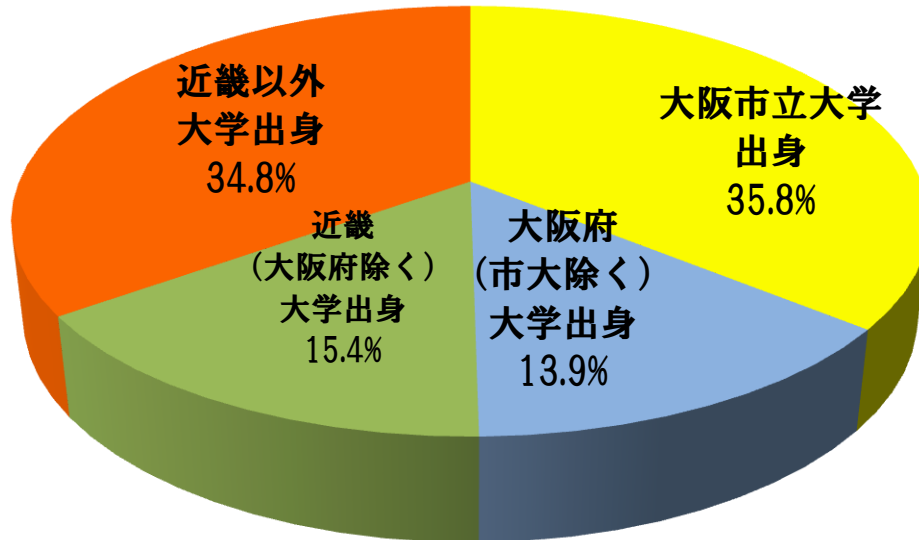
※進路状況の確認時期は、毎年11月に行っています。

※その他の項目は、医師以外の職に就いた者、もしくは未定者のデータとなります。



# 研修医の動向

研修医の出身大学所在地 2005年度 (H17) ~2011年度 (H23) 受け入れ



全国42大学から研修医を受け入れ

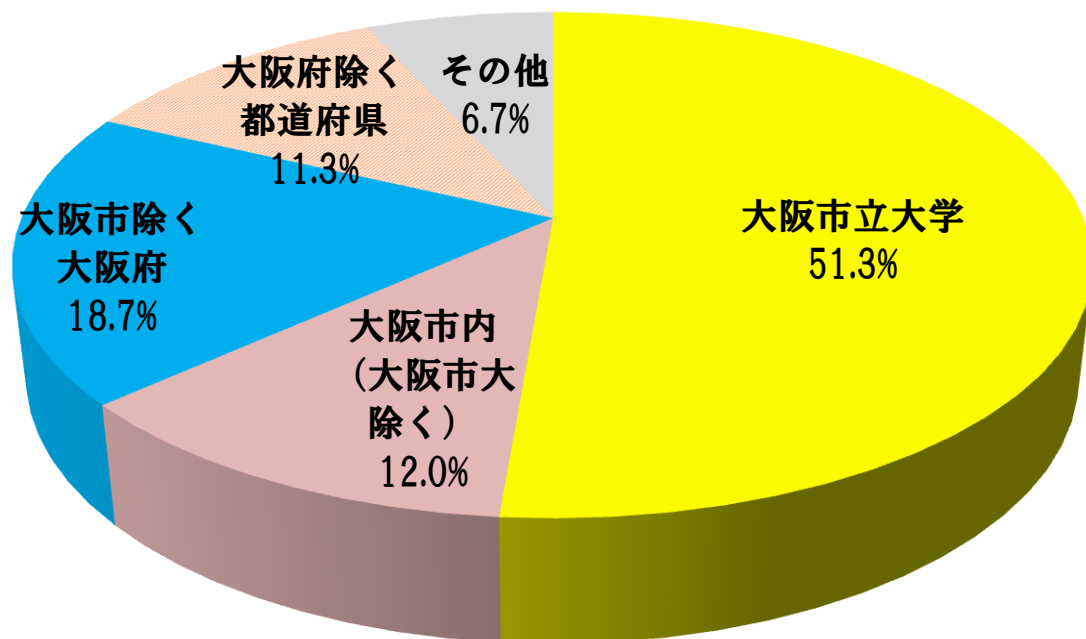
10名以上研修医を受け入れている大学

大学	出身地	人数
大阪市立大学	—	143名
近畿大学	大阪府	30名
兵庫医科大学	近畿	24名
和歌山県立医科大学	近畿	21名
香川大学	近畿以外	15名
川崎医科大学	近畿以外	14名
大阪医科大学	大阪府	14名
金沢医科大学	近畿以外	13名
関西医科大学	大阪府	12名
福井大学	近畿以外	12名

半分以上の研修医を大阪府以外から受け入れている。

	採用年度							合計	
	2005 (H17)	2006 (H18)	2007 (H19)	2008 (H20)	2009 (H21)	2010 (H22)	2011 (H23)		
大阪市立大学出身	15名	23名	18名	16名	28名	22名	22名	144名	35.8%
大阪府 (市大除く) 大学出身	11名	9名	5名	9名	4名	9名	9名	56名	13.9%
近畿 (大阪府除く) 大学出身	13名	15名	6名	8名	9名	5名	6名	62名	15.4%
近畿以外大学出身	25名	23名	22名	17名	18名	19名	16名	140名	34.8%
合計	64名	70名	51名	50名	59名	55名	53名	402名	100.0%

## 研修医の勤務先 2005年度（H17）～2011年度（H23）修了者



研修医の80%以上が、修了後に大阪府下の医療機関に勤務している。

勤務先	修了年度							合計	
	2005 (H17)	2006 (H18)	2007 (H19)	2008 (H20)	2009 (H21)	2010 (H22)	2011 (H23)		
大阪市立大学	33	33	36	27	23	35	27	214	51.3%
大阪市内（大阪市大除く）	6	11	9	8	6	6	4	50	12.0%
大阪市除く大阪府	16	9	9	10	12	10	12	78	18.7%
大阪府除く都道府県	8	6	7	3	8	6	9	47	11.3%
その他（留学・進学・不明など）	5	5	8	4	1	2	3	28	6.7%
合計	68	64	69	52	50	59	55	417	100.0%

## 教育の特徴

### 【学部】

	大阪市立大学	大阪大学	神戸大学
早期臨床実習	○ 1～3回生	なし	○ 1回生
早期地域医療実習	○ 1回生	なし	なし
MD研究者育成プログラム	なし	○ 1～2回生（選択）	なし
修業実習（基礎配属）	○ 3回生	○ 3回生	○ 3回生
選択BSL臨床実習	○ 6回生	○ 5回生	○ 6回生
海外実習	あり	なし	なし

#### ◇先進教育システム

2・3回生 : バーチャルスライドシステム導入による視覚教育

4・5・6回生 : スキルスシミュレーションセンター（SSC）活用実習

文部科学省「地域医療等社会的ニーズに対応した医療人教育支援プログラム」採択事業

◇学生・教育者の表彰 : 学生の投票による「知」「仁」「勇」の学生とTeacher of the year)

### 【大学院】

◇6 大学連携オンコロジーチーム養成プラン（2007年～2011年）

◇7 大学連携先進的がん教育基盤推進プラン（2012年～2016年）

: 文部科学省「がんプロフェッショナル養成プラン」採択事業

### 【卒後】

◇地域と連携した女性医師・看護師支援システム

: 文部科学省「地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム」採択事業（2007～2011年）

# 海外留学支援への取り組み

ISA0 (大阪市立大学国際医学生団体)

- ・ 学生により2002年に設立、部となる
- ・ これまで120名以上の交換留学を支援

国際提携校：

トーマスジェファーソン大学 (USA)

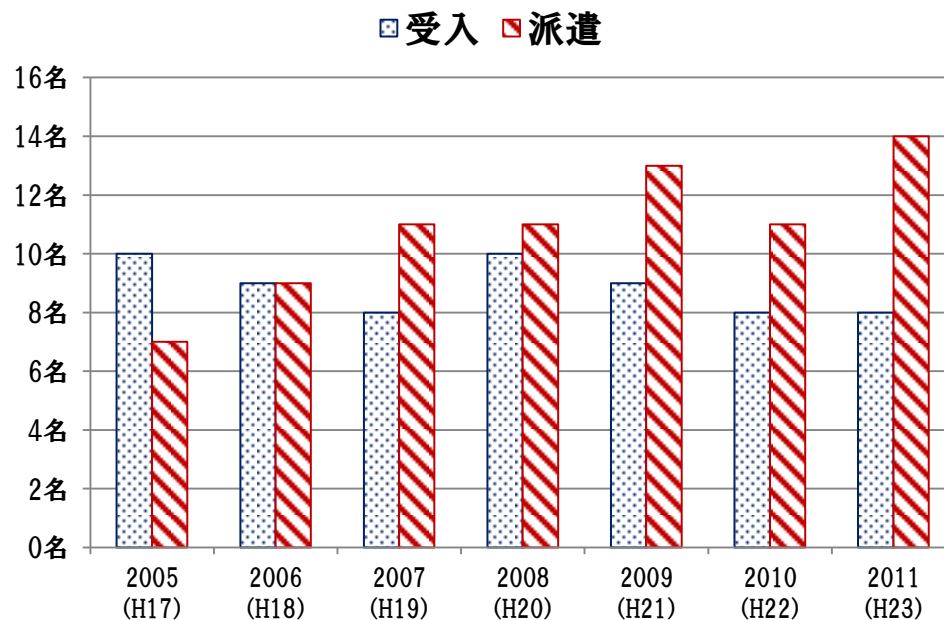
全南大学 (韓国)

台湾大学 (台湾)

台湾医科大学と提携 (台湾)

## 国際交流実績

年度	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	合計
受入	10名	9名	8名	10名	9名	8名	8名	88名
派遣	7名	9名	11名	11名	13名	11名	14名	97名



# スキルスシミュレーションセンター (SSC) について

平成19年 (2007年) 3月      スキルスシミュレーションセンター (SSC) 開設

## 【特色】

文部科学省「全人的医療人育成のためのプログラム」採択事業の一環として、2007年3月に開設。研修医（医師）だけでなく、医学部と附属病院に属するすべての医療人に、medical skill研鑽の場を提供するために、様々な業務に従事する専従管理人が、開設当初より常駐していることが特徴。

## 【利用者】

- 1) 医学科生
- 2) 看護学科生
- 3) 医師
- 4) 看護師
- 5) その他の附属病院職員
- 6) センター長により使用を許可された者



SSC利用者数

- |               |    |
|---------------|----|
| 1) 採血・静脈内留置針  | 3月 |
| 2) 2次救命救急     | 3月 |
| 3) 中心静脈穿刺手技   | 4月 |
| 4) 基本外科手技     | 5月 |
| 5) 女性診療手技     | 6月 |
| 6) 腰椎穿刺・気管内挿管 | 7月 |

	2007	2008	2009	2010	2011
医師	1,517	1,075	1,066	1,364	1,112
看護師	954	1,439	1,599	1,667	1,618
医学生	2,969	2,307	2,208	2,508	2,152
看護学生	381	478	443	477	300
その他	1,171	1,469	1,583	1,877	1,686
合計	6,992	6,768	6,899	7,893	6,868

# SSCの効果

## I.教育効果

- 現場ではさせてもらえないが、実際にやらせてもらえた。
- 実際にやる前にイメージがわいた。
- 器材がそろっており、臨場感が味わえた。
- 後輩指導で自分も勉強になった。

## II.啓発効果

- SSCは病院の安全対策上必要不可欠。
- 自分も病院職員だと認識した。

## III.宣伝効果

- SSCがあるなら大学病院で研修（就職）したい。
- 他施設からの見学者多数。

- ◇さまざまな医療研修に応用可能。
- ◇宣伝効果など、教育以外の成果も期待できる。
- ◇医局、看護部、医学科/看護学科、他学部、他院などの垣根を越えた横断的な組織となりえる。



### 主な講習会

基本的心肺蘇生講習会／採血手技講習会／2次救命処置（ICLS）講習会／模擬患者診療講習会／腹部超音波手技講習会／消化器内視鏡手技講習会／腰椎穿刺&気管内挿管手技講習会／心電図読影講習会／心音聴診手技講習会／呼吸音聴診手技講習会／中心静脈穿刺手技講習会／外科基本手技講習会／女性診察手技講習会

# 医師国家試験合格者比較（公立8大学と近隣国立大学抜粋資料）

## ■平成21年度（第104回）

順位	全大学 順位	学校名	総数			新卒			既卒		
			受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
1	8	大阪市立大学医学部	85	81	95.3%	79	76	96.2%	6	5	83.30%
2	9	福島県立医科大学	84	80	95.2%	79	76	96.2%	5	4	80.00%
3	10	名古屋市立大学医学部	82	78	95.1%	76	76	100.0%	6	2	33.30%
4	11	奈良県立医科大学	103	98	95.1%	97	96	99.0%	6	2	33.30%
5	12	横浜市立大学医学部	60	57	95.0%	59	56	94.9%	1	1	100.00%
6	15	札幌医科大学	101	95	94.1%	97	91	93.8%	4	4	100.00%
7	39	京都府立医科大学	99	90	90.9%	91	84	92.3%	8	6	75.00%
8	49	大阪大学医学部	116	104	89.7%	105	98	93.3%	11	6	54.50%
9	56	神戸大学医学部	118	104	88.1%	108	101	93.5%	10	3	30.00%
10	66	和歌山県立医科大学	58	50	86.2%	56	49	87.5%	2	1	50.00%

## ■平成22年度（第105回）

順位	全大学 順位	学校名	総数			新卒			既卒		
			受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
1	4	札幌医科大学	104	100	96.20%	101	98	97.00%	3	2	66.70%
2	7	京都府立医科大学	110	105	95.50%	102	99	97.10%	8	6	75.00%
3	21	福島県立医科大学	89	83	93.30%	84	80	95.20%	5	3	60.00%
4	27	横浜市立大学	64	59	92.20%	61	56	91.80%	3	3	100.00%
5	32	名古屋市立大学	81	74	91.40%	78	72	92.30%	3	2	66.70%
6	34	大阪市立大学医学部	80	73	91.30%	76	70	92.10%	4	3	75.00%
7	46	大阪大学	111	99	89.20%	98	90	91.80%	13	9	69.20%
8	52	和歌山県立医科大学	69	61	88.40%	60	55	91.70%	9	6	66.70%
9	59	奈良県立医科大学	96	84	87.50%	91	83	91.20%	5	1	20.00%
10	65	神戸大学	99	86	86.90%	84	82	97.60%	15	4	26.70%

## ■平成23年度（第106回）

順位	全大学 順位	学校名	総数			新卒			既卒		
			受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
1	8	大阪市立大学医学部	99	96	97.0%	92	90	97.8%	7	6	85.70%
2	9	和歌山県立医科大学	65	63	96.9%	56	54	96.4%	9	9	100.00%
3	13	名古屋市立大学医学部	92	88	95.7%	85	82	96.5%	7	6	85.70%
4	22	横浜市立大学医学部	64	61	95.3%	59	56	94.9%	5	5	100.00%
5	34	京都府立医科大学	102	96	94.1%	97	92	94.8%	5	4	80.00%
6	37	神戸大学医学部	126	116	92.1%	112	108	96.4%	14	8	57.10%
7	38	奈良県立医科大学	107	98	91.6%	95	92	96.8%	12	6	50.00%
8	38	大阪大学医学部	107	98	91.6%	95	92	96.8%	12	6	50.00%
9	40	福島県立医科大学	80	73	91.3%	74	68	91.9%	6	5	83.30%
10	43	札幌医科大学	107	97	90.7%	100	92	92.0%	7	5	71.40%

TECOM  
ホームページより

# がんプロフェッショナル養成プラン

## －6大学連携オンコロジーチーム養成プラン

### 「がんプロフェッショナル養成プラン」とは

国公立大学から申請されたプログラムの中から、質の高いがん専門医等を養成し得る内容を有する優れたプログラムに対し財政支援を行うことにより、大学の教育の活性化を促進し、今後のがん医療を担う医療人の養成推進を図ることを目的としています。

(文部科学省HPより)

### 「6大学連携オンコロジーチーム養成プラン」とは

6大学は共通特論を含む共通の教育プログラム（単位互換）により放射線腫瘍専門医、がん薬物療法専門医、がん看護専門看護師、がん専門薬剤師、医学物理士の養成コースにインテンシブコースを加えて近畿圏全体から多くの対象者を募集します。大学附属病院と近畿4府県のがん診療連携拠点病院、国立がんセンター東病院と連携してがん医療の高度な知識と技術を修得可能としチーム医療が実践できる医療人を育成、近畿全体のがん医療水準の向上と均霑化を目指します。

### 6大学連携オンコロジーチーム養成プランの意義とビジョン (大阪市立大学)

医学の進歩とともに、がんが「不治の病」であるという認識が変わってきています。

不治の病

治る可能性のある病

様々な治療方法が開発された病

現在

これからは...

現在

誰もが十分な治療を受けられる社会の実現

その為に解決しなければならない問題もあります。

問題点

知識や技術の相互交流が少ない

専門医が少ない育たない

地域に十分に根ざしていない

専門家同士の連携が少ない

このままでは、開発された「がん」の早期発見と治療に関する高度な知識や技術が、患者さんのもとへ届かない

### 6大学連携オンコロジーチーム養成プランのビジョン

- ◆近畿圏のがん医療水準の向上と均てん化により、誰でもが、どこでも、最先端のがん治療を受けられる環境の構築を目指す。
- ◆その医療サービスを提供するチームと、チームを構成する専門医、専門薬剤師、専門看護師、医学物理士の養成を行う。



# がんプロフェッショナル大学院生入学者数

文部科学省「がんプロフェッショナル養成プラン」採択事業(2007年～2011年)

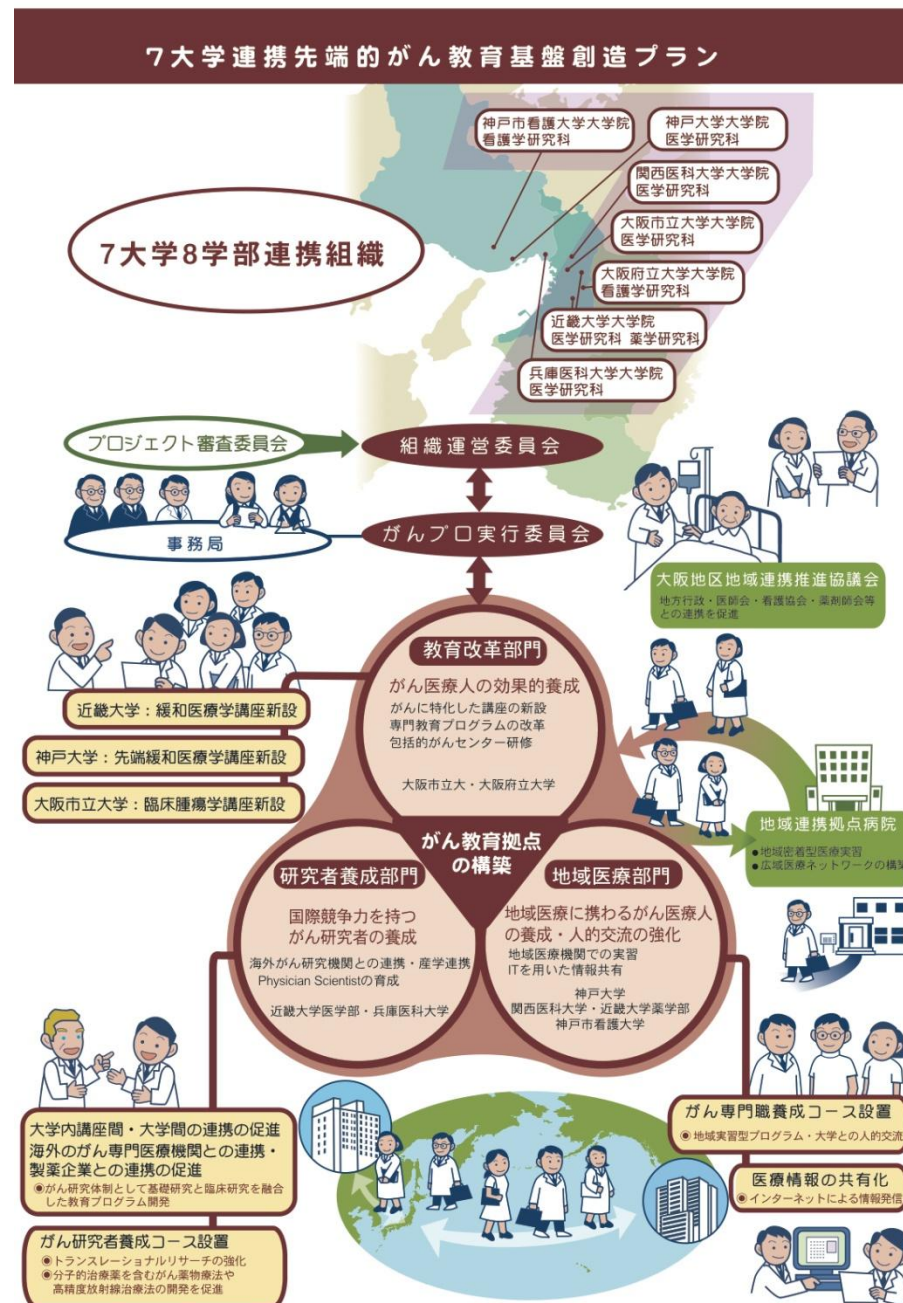
平成24年1月現在

大学名	コース名	養成受入	H20年度 (2008年度)	H21年度 (2009年度)	H22年度 (2010年度)	H23年度 (2011年度)	合計
		計画人数	実績	実績	実績	実績	
大阪市立大学	がん薬物療法 専門医	14	→ 3	4	1	2	10
近畿大学医学部			10	11	6	5	
神戸大学							
兵庫医科大学							
大阪市立大学	放射線腫瘍 専門医	8	→ 1	1	1	0	3
近畿大学医学部			5	5	4	1	
神戸大学							
兵庫医科大学							
近畿大学薬学部	がん専門 薬剤師	6	5	8	5	1	19
神戸大学							
近畿大学医学部	医学物理士	4	6	2	4	3	15
神戸大学							
兵庫医科大学							
大阪府立大学	がん看護専門 看護師	6	6	8	9	8	31
神戸市看護大学							
合 計		38	32	34	28	18	112

# インテンシブコース生 入学者 実績

大学名	インテンシブコース学生数				
	2008	2009	2010	2011	合計
大阪市立大学	14	11	11	13	49
近畿大学	5	1	1	1	8
神戸大学	7	2	3	0	12
兵庫医科大学	6	2	0	0	8
合計	32	16	15	14	77

## 7大学連携先進的がん教育基盤推進プラン：文部科学省「がんプロフェッショナル養成プラン」採択事業 (2012年～2016年)



## 地域と連携した女性医師・看護師支援システム

文部科学省「地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム」採択事業（平成19年度～）

	大阪市立大学	大阪大学	神戸大学
学内保育所	あり	あり	あり
病児保育室	あり	なし	なし

### <子育てとの両立支援>

1. 学内保育所「カンナ」設立
2. 病児保育室「タンポポ」設立
3. 柔軟な勤務システム（短時間勤務制度、残業・当直免除）  
ワークライフ・バランスを保ちながら、仕事と子育てを両立させてキャリアアップをしていくことが可能
4. 女性医師・看護師の復帰支援  
スキルスシミュレーションセンターでの実技研修、e-ラーニングシステムを活用した自宅での復帰研修
5. 女性医師・看護師支援の地域連携システムの構築
  - ・大阪市女性医師ネットワークとの連携
  - ・大阪市の市民病院群および地域の関連病院（合計32病院）との連携

### <実績>

- ◆カンナ院内保育所の利用者数                      平成21年度 女性医師 11名、看護師 10名  
平成22年度 女性医師 11名、看護師 12名
- ◆カンナ院内保育所を利用した女性医師の所属は 15教室。
- ◆病児保育室「たんぽぽ」の利用者数                      平成21年度 女性医師 89名、看護師 22名  
平成22年度 女性医師 79名、看護師 83名
- ◆上記の子育て支援システムの実施により、女性医師が出産・育児を理由に退職する例は無くなった。

### ◇先制医療の推進；

- ・ 『健康・予防医療ラボトリー』 開設（2006年）
- ・ 『疲労克服プロジェクト』 開始（2004年）

文部科学省21世紀COEプログラム採択事業

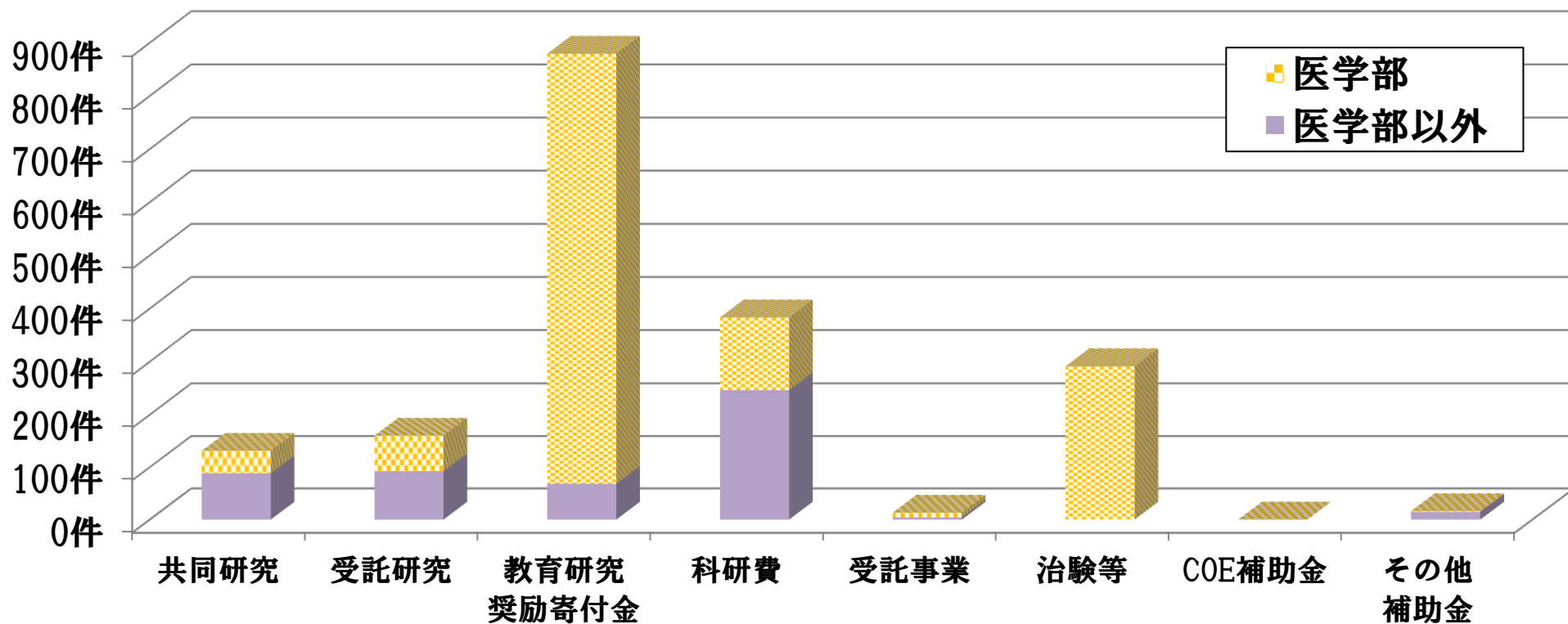
「疲労克服研究教育拠点の形成」（2004-2008年）から続行

- ・ 『先端予防医療センター（仮称）』 開設予定（2014年）

### ◇臨床試験の推進；

- ・ 『医薬品・食品効能評価学講座および医薬品・食品効能評価センター』 開設  
(2005年)
- ・ 治験拠点病院に認定（2007年）

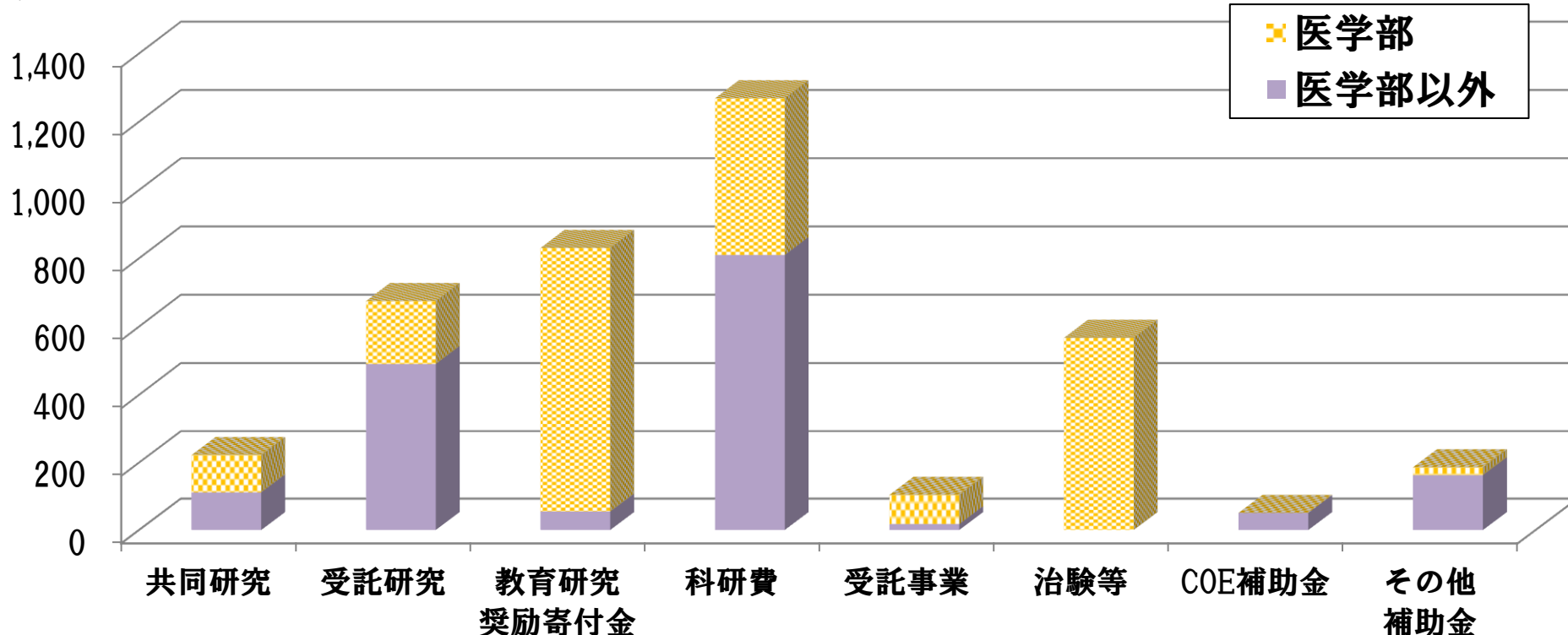
# 外部資金獲得件数



	共同研究	受託研究	教育研究 奨励寄付金	科研費	受託事業	治験等	COE補助金	その他 補助金	計
<b>全学</b>	131	160	879	383	13	291	0	16	1,873
<b>医学部</b>	43	68	811	137	9	291	0	2	1,361
<b>医学部以外</b>	88	92	68	246	4	0	0	14	512
	32.8%	42.5%	92.3%	35.8%	69.2%	100.0%	—	12.5%	72.7%

# 外部資金獲得金額

単位：百万円



単位：百万円	共同研究	受託研究	教育研究 奨励寄付金	科研費	受託事業	治験等	COE補助金	その他 補助金	計
全学	222.1	674.3	830.0	1,268.4	104.2	566.7	50.6	186.0	3,902
医学部	110.8	184.5	775.6	459.2	87.0	566.7	0.0	23.7	2,207.5
医学部以外	111.3	489.8	54.4	809.2	17.2	0.0	50.6	162.3	1,694.8
	49.9%	27.4%	93.4%	36.2%	83.5%	100.0%	0.0%	12.7%	56.6%

# 医薬品・食品効能評価センターの実績

平成17年(2005年)12月 「医薬品・食品効能評価センター」を開設

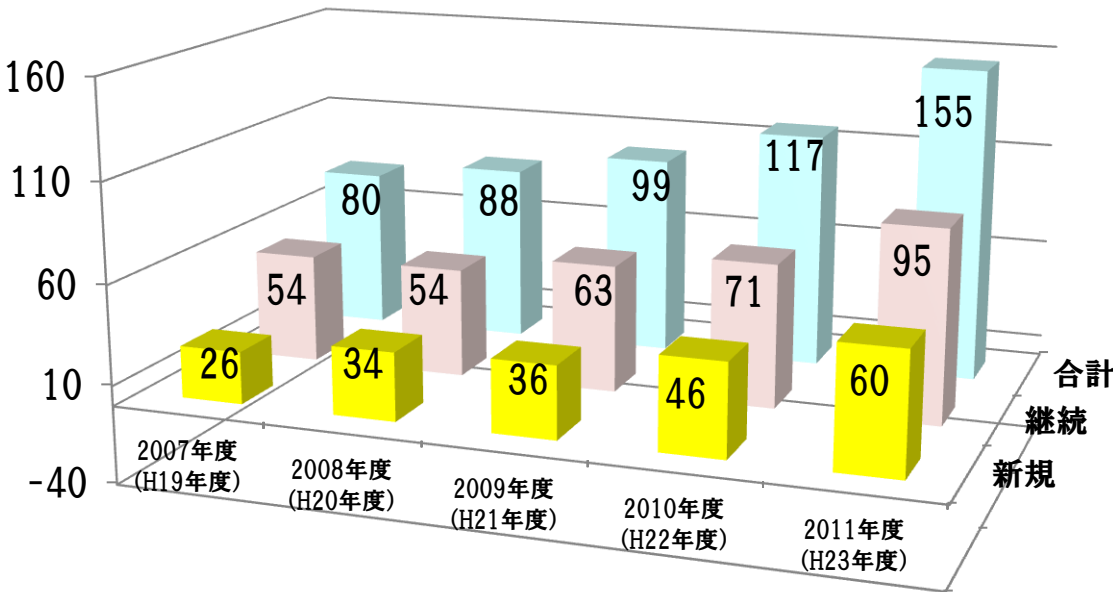
## 【主な業務】

- ◆ 医薬品、医療機器などの臨床試験（治験）実施
- ◆ 特定保健用食品をはじめとする機能性食品の臨床試験受託実施
- ◆ 製造販売後調査・副作用調査の受付事務・契約の実施
- ◆ 治験／効能試験審査審査委員会の組織及び運営
- ◆ 「おおさか臨床試験ボランティアの会」の組織化、運営
- ◆ 医師主導臨床研究の支援

平成19年(2007年)7月  
厚生労働省が「**治験拠点機関**」として選定  
  
近畿2府4県で大学病院としては  
大阪市立大学に加え、近畿大学が選定。

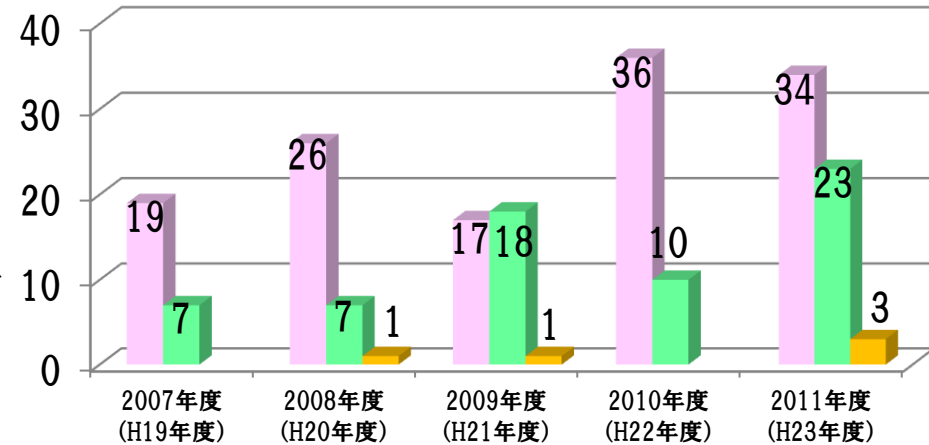
## 治験受託数の推移

■ 新規 ■ 継続 ■ 合計



## 治験受託内訳

■ 国内治験 ■ 国際共同治験 ■ 医師主導治験



# 疲労克服プロジェクト

## 疲労研究と疲労計測の国際標準化

## 疲労克服社会の形成

国際誌「Journal of Fatigue Science」創刊

国際疲労学会の更なる発展

ハルカス

大阪阿倍野再開発地区「慢性疲労健診センター」

慢性疲労症候群の原因解明と治療

CDC(疲労管理研究センター)

脳脊髄液中のプロテオーム解析

ニュージャージー大学

慢性疲労とウイルス解析

スタンフォード大学

オミックス解析

・プロテオーム  
・メタボローム  
・遺伝子アレイ  
・トランスクリプトーム

慶応大学 理化学研究所

ウイルス RNase 解析

東京慈恵会医科大学

癒しの脳科学 抗疲労都市再生

ロンドン大学

分子・脳機能イメージング

理化学研究所

双生児研究

カロリンスカ大学 ウプサラ大学

うめきた

大阪駅北側地区「疲労研究ラボラトリー・疲労コミュニケーションラボラトリー」構想

共同研究連携先

国内 国外

疲労科学研究

学習意欲と学力低下の問題 子ども・青年の疲労/不登校

兵庫リハビリテーション病院、熊本大学

針灸治療・漢方と抗疲労

北京大学

疾患関連疲労

総合医療センター

疲労臨床研究

疲労検診 コホート研究

大阪市

大型コホート研究

コホート研究

デュポール大学 グラスゴー大学

医学教育 システムの連携 トマス・ジェファーソン大学

社会科学的 研究

ウメオ大学

ものさしの簡易キット化

総合医科学研究所 ウイルス医科学研究所 疲労科学研究所

OTC薬・医薬品へ

大阪大谷大学や 医薬品企業等 タイアップ

抗疲労研究

癒し環境 空間開発

抗疲労機能性 食品の開発

薬の副作用と 外科侵襲による 疲労

国立がん 研究センター

医療従事者と 介護者の疲労

関西福祉 科学大学

疲労臨床 研究専攻

疾患別 疲労学

疲労科学研究専攻

教育 人材 育成

社会 における 疲労学

抗疲労 研究専攻

産業疲労

産業疲労特定 検診センター

総合医科学研究所 ほか企業

### 疲労の臨床

疲労質問紙・PC版の完成、慢性疲労プーチコホート研究、慢性疲労検査項目の確立、慢性疲労症候群の治療法の開発・試験、人工透析時の疲労

### 疲労の分子神経メカニズム解明に向けて

疲労バイオマーカーとしての鉄・ヘム・アミノ酸代謝、過労死前の内分泌系破綻、慢性疲労時の自律神経・脳機能低下のメカニズムに関する確かな手がかり

### 抗疲労食薬環境空間開発

抗疲労製品開発のためのバイオマーカーの樹立、抗疲労食品試験の臨床ガイドラインの創成、抗疲労癒し製品評価センターの提案



健康人  
(未病)

## 先端予防医療センター

- ・ 予防医療の実践
- ・ 未病データの蓄積・解析による新たな研究成果の創出
- ・ 国際競争を勝ち抜く研究者の人材育成

### ヘルスチェック



- ・ 血液、尿検査
- ・ 生活習慣病検査
- ・ 一般画像検査、EKG、etc.
- ・ CT、MRI、US画像検査
- ・ 内視鏡検査
- ・ カプセル内視鏡検査
- ・ ストレスや疲労チェック、etc.

- ・ 遺伝子検査 (がん、生活習慣病)
- ・ SNPs検査 (がん、薬の効果予測)
- ・ バイオマーカー (ペプチド、miRNA)

検(健)診

健康寿命

産学連携

有病者

## 市大病院

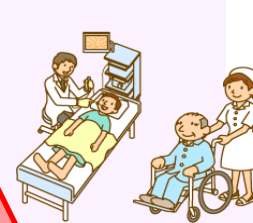
- 地域がん診療連携拠点病院
- 肝疾患診療連携拠点病院
- 地域周産期医療センター
- 救命救急センター

専門医

診察

診断サポート

専門医による治療



入院-手術



外来での経過観察

電子カルテ一元管理

・ 5大疾患・生活習慣病の  
早期発見・早期治療  
・ 疾患を早期に  
未病段階で発見

見つかったら  
市大病院

治癒後のチェック

先制医療の開発

テーラーメイド医療

研究成果

新治療法開発

新診断法開発

研究者



共同研究

専門医



バイオレポジトリの整備

疾病データ・  
疾患生体試料の集積

研究開発を支える人材育成

(仮称)  
先端医療研究機関

医学教育への活用

肝胆膵疾患領域全般に亘り Bridging basic science and clinical medicine を目標に臨床と基礎研究の融合を目指す  
 主たる研究分野：ウイルス性肝疾患、肝がん、肝線維化の分子機構、バイオマーカー開発

### 診療等の実績

	大市大肝胆膵内科	阪大消化器内科	神大消化器内科
肝疾患診療連携拠点病院			
	認定	認定	なし
特記事項	・大阪府肝疾患ネットワーク誌Vol1.2を作製 ・健康手帳エル「L」を作製		
肝臓病教室(年開催)	4回	なし	なし
スタッフ数(肝臓が専門)			
助教相当以上の教員数	10	11	3
専門医			
肝臓学会認定専門医	15	26	8
肝臓学会指導医	3	8	1
肝臓学会評議員	3	6	0
超音波学会専門医(消化器)	3	1	0
診療実績			
肝生検数(2009/2010/2011)	230/238/210	96(2008)	データなし
ラジオ波焼灼術(2009/2010/2011)	110/103/106	99(2008)	52(2010, PEIT含む)
ラジオ波2011年全国順位	27位(外科含む)、大学では9位	70位圏外	70位圏外
腹腔鏡を用いた検査・治療(3年間)	69	実施せず	実施せず
B型肝炎へのIFN治療(2000年～)	75	データなし	データなし
B型肝炎への核酸治療(2000年～)	253 (ETV 198, LAM+/-ADV55)	データなし	データなし
C型肝炎へのIFN治療(2000年～)	1239	データなし	データなし
英文原著論文数(肝胆膵領域に限る)			
2011年	23	20	0
2010年	10	17	2
2009年	13	16	0

### 研究の実績

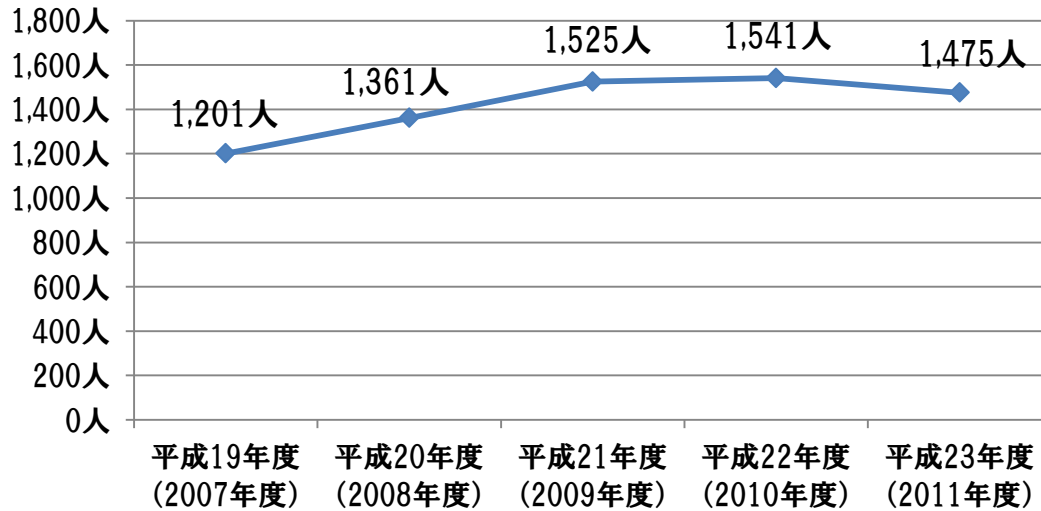
- ★寄附研究部門「肝疾患予防医学研究部門」設立 平成20年より～継続中
- ★厚生労働省科学研究費補助金 H20～H22 インターフェロンの抗肝線維化分子機構の解明とその応用(主任) 5180.1万円など
- ★JSPS科学研究費補助金(基盤B) H20～H22 サイトグロビンノックアウトマウスを用いた肝硬変・肝癌病態解析(主任)1209万円など
- ★MEXT科学研究費補助金H23～H24癌微小環境形成におけるサイトグロビン陽性あるいは陰性筋線維芽細胞の役割(主任)858万円
- ★キャンオン財団 H23～H24 超音波速度の温度依存性を利用した内臓脂肪診断装置の開発(主任) 1700万円など
- ★企業との共同研究 2012年6月現在 3件継続実施中
- ★特許出願3件(最近3年間)
- ★ベトナム人ポスドク2人在籍、国費留学生内定(2012年10月～)などベトナム国ハノイ医科大学と協定下に共同研究を計画中

# 地域への貢献

## 市民医学講座の開催

市民に対する病気の治療と予防の知識を深めることを目的として、大阪市立大学（医学研究科、看護学研究科、医学部医学科、医学部看護学科）が主催して、平成8年（1996年）3月から平成24年（2012年）3月まで160回開催。

市民医学講座 受講生



	平成19年度 (2007年度)	平成20年度 (2008年度)	平成21年度 (2009年度)	平成22年度 (2010年度)	平成23年度 (2011年度)
受講生	1,201人	1,361人	1,525人	1,541人	1,475人
男	602人	719人	699人	803人	690人
	50.1%	52.8%	45.8%	52.1%	46.8%
女	599人	642人	826人	738人	785人
	49.9%	47.2%	54.2%	47.9%	53.2%

平成23年度 (2011年度) 市民医学講座 演題一覧		
回数	開催日	演題
151回	4月14日 (木)	食品の安全性について
152回	5月17日 (火)	生活習慣病とうつ病
153回	6月17日 (金)	脳の画像診断について
154回	7月27日 (水)	最新の認知症診療
155回	9月14日 (水)	骨髄移植について
156回	10月18日 (火)	最新の食道癌外科治療
157回	11月15日 (火)	最新の肝炎ウイルス診療
158回	12月13日 (火)	五十肩の治し方
159回	(2012年) 1月18日 (水)	現代のうつ病治療
160回	(2012年) 2月17日 (金)	変わりゆく放射線治療 - 高精度放射線治療の役割について -

平成23年度開催回数	
大阪市立大学	10回
京都府立医科大学	4回
奈良県立医科大学	2回

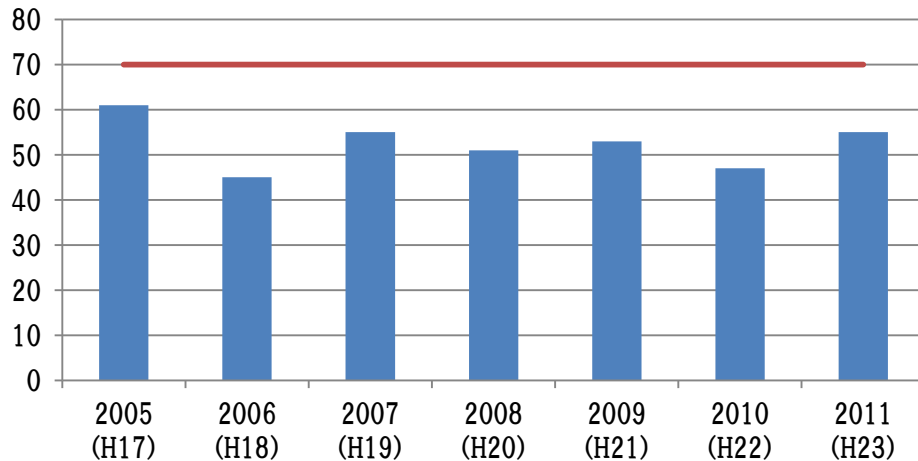
各大学HPより

# 改革への取り組み

## 大学院改革

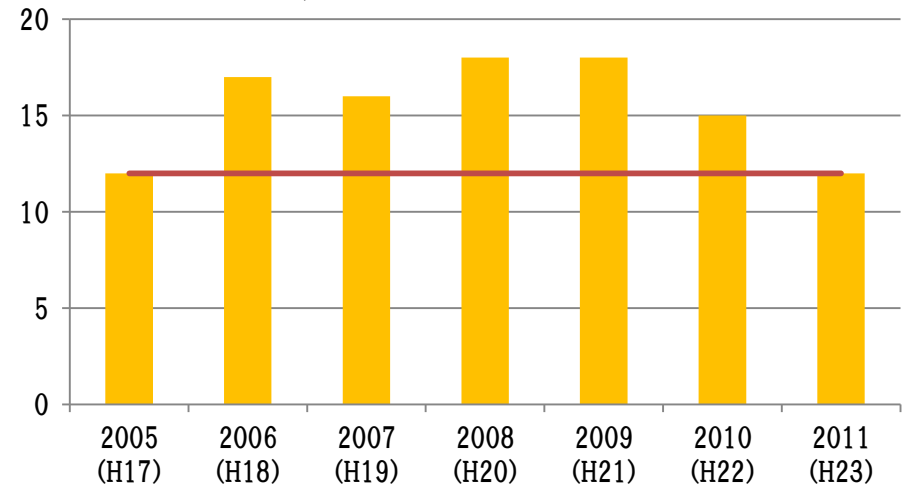
博士課程 定員70名

■ 合計 ■ 定員



修士課程 定員12名

■ 修士課程 ■ 定員



### 大学院改革推進委員会設置：2012年4月 検討テーマ

#### ◆大学院への入学を促進する当医学研究科に適した編成の検討

- ① 臨床研修医・臨床研究医が研究するコースの設置
- ② 社会人コースの設置
- ③ 基礎と臨床のブリッジ・コースの設置

#### ◆がんプロフェッショナル養成プラン（第二期進行中）：臨床腫瘍学講座開設

#### ◆リーディング大学院に適合する制度改革の推進

### グローバル化の推進

#### 国際交流委員会設置：2012年4月

目的) 大阪市立大学医学部生、大学院生、ポスドク、後期臨床研修医のグローバル化を支援

#### 検討テーマ

- ◆主要各国の医科系大学および附属病院と交換留学、単位互換、医療への関与などの提携の推進
- ◆アジアを中心とした国際医療の拠点とするための高度な医療の国際交流の推進
- ◆各講座単位で行なっている留学生の派遣、受入れや海外大学との提携など一括集約して情報の共有化
- ◆大阪市立大学医学部生、大学院生、ポスドク、後期臨床研修医のグローバル化を支援する企画・立案

活動中のプロジェクト：授業英語化プロジェクト、寄宿舍整備プロジェクト、学部間協定プロジェクト、個人奨学金プロジェクト、短期海外研修プロジェクト、ホームページ作成プロジェクト、病院国際認証(JCI)プロジェクト、国内連携プロジェクト、海外拠点リクルートプロジェクト

# 改革への取り組み

2012年3月まで

	講座名
臓器器官病態内科学	循環器病態内科学
	腎臓病態内科学
	呼吸器病態制御内科学
	代謝内分泌病態内科学
	肝胆膵病態内科学
	消化器内科学
	血液腫瘍制御学
	神経精神医学
	血行動態力学
	医薬品・食品効能評価学
機能管理医学	放射線医学
	核医学
	診断病理学
	麻酔科学
	救急生体管理医学
医学	卒後医学教育学
	生殖発生発育病態学
	女性病態医学
外科学	老年内科学
	腫瘍外科学
	消化器外科学
	肝胆膵外科学
	循環器外科学
感覚・運動機能医学	泌尿器病態学
	皮膚病態学
	視覚病態学
	耳鼻咽喉病態学
	上気道機能病態学
	脳神経外科学
	脳神経病態学
	整形外科学
	リウマチ外科学
	形成外科学

## 講座再編：臨床系

医療管理医学大講座設置：2012年4月

医療の質を向上させるため、医療管理医学を研究分野として位置づけ、プロフェッショナル育成（大学院）やデータ分析などを行う。

医療管理医学	医薬品・食品効能評価学
	卒後医学教育学
	臨床感染制御学
	医療安全管理学

### 病院の実力「医療安全」

医療機関別報告実績（読売新聞調べ）

医療機関名	専従担当者 (最終件数)	事故調設置 (最終件数)	報告件数 1床当たり	医師の報告 率(%)
大阪赤十字	○	×	9	*
大阪市大	○	○(3)	14	4
近畿大	○	○(1)	16	4
大阪医大	○	×	9	5
関西医大枚方	○	○(5)	18	7
北野	○	○(3)	32	1
大阪労災	○	○(1)	9	9
国・大阪	○	×	19	3
国立循環器病研究セ	○	○(2)	15	4
市立豊中	○	×	12	4
淀川キリスト教	○	×	22	1
星ヶ丘厚生年金	○	○(0)	12	2
大阪厚生年金	○	×	9	4
関西医大滝井	○	×	24	5
府立成人病セ	○	○(2)	12	10
済生会吹田	○	×	14	1
市立堺	○	×	16	1
高槻赤十字	○	×	14	1
市立吹田市民	○	×	11	2
大手前	○	×	8	2
市立岸和田市民	○	○(2)	13	1
市立池田	○	○(0)	21	2
石切生喜	○	×	3	1
箕面市立	○	○(0)	14	2
済生会茨木	○	×	9	*
馬場記念	○	×	6	1
西淀	○	○(2)	17	5
北摂総合	○	×	10	3
豊島生野	○	○(1)	5	*
佐藤	×	○(1)	17	5
東大阪生協	×	×	18	*
中野こども	○	×	9	2

※「セ」はセンター、「国・」は国立病院機構。「専従担当者」は医療安全管理の専従職員の有無。「事故調設置」は外部委員を招いた公式な医療事故調査委員会設置経験の有無で、( )内は2007～11年度までに調査が終了した件数。「1床当たり報告件数」は2009～11年度のインシデント・アクシデント報告件数を実質稼働病床1床当たり換算。「\*」は0.5未満。

\*全国の調査結果は「くらし健康面」に掲載しています。

# 病院の実力

\*大阪編54

## 医療安全

## 客観的な事故調査重要

初めて「病院の実力」は、「医療安全」をテーマ

だが、「医療安全」への取り組みは、医療の質や安全

医療現場では、予想外の事態が起きていることも珍しく

スモを含め、起こったことが

この報告がきちんと集まっていることは、事実を隠さず情報共有する「報告文化」が病院に根付いているかどうかの目安になる。医療スタッフの中でも、リスクの高い処置を行う医師の報告はより重要だ。

マに採り上げた。診療実績が中心の通常のアンケートとは少し性格の違うテーマ

勢を知るうえで重要な情報だ。

方向性に対する病院の姿勢を知るうえで重要な情報だ。そうした中、問題を早く察知して適切に対処したり、再発を防止したりする

確実に報告される仕組みの定着が不可欠になる。一覽表には、医療事故など患者に害が及んだ出来事やその可能性があった事例を集めた「インシデント・アクシデント報告」の件数を示した。

客観的な事故調査重要

客観的な事故調査重要

客観的な事故調査重要

客観的な事故調査重要